

然を 引き継ぐために

残雪が映える雄大な峰々
色とりどりに咲く高山植物とその間を伸びる木道
深くきざまれた溪谷と紅葉
タンチョウが優雅に舞う湿原
静かなる水をたたえる湖
牛たちがのんびりと草をはむ草原
広い海に夕日を受けて浮かぶ島々
熱帯魚とサンゴ礁が作る神秘の海
亜熱帯の森が育む生態系

自然とふれあうことにより
私たちは深い感動ややすらぎを得ることができます。
国立公園は、次の世代、さらにまた次の世代も
私たちと同じ感動を味わい、楽しむことができるように
すぐれた自然の風景をまもり
後世に伝えようとするところです。
この目的のために国立公園では
様々なきまりがあり
いろんな人が活動しています。
今からみなさんに国立公園について
紹介していきたいと思います。

国立公園って何だろう？

日本の国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法という法律に基づいて国（環境省）の指定を受け、管理されています。国立公園は、全国で34カ所が指定されていて、56カ所ある国定公園、300カ所を超える都道府県立自然公園とともに、日本の自然公園のネットワークを作り、その中心となっています。国立公園の面積は合計約 219万ヘクタールで、日本の国土面積の約5.8%を占めています。国立公園は開発の波から自然を守り、自然とのふれあいの場としてだれもが利用できるところで、年間約3億もの人が訪れています。



南アルプス国立公園

国立公園の歴史をみてみよう

世界で初めて国立公園を作ったのはアメリカ合衆国で、1872年にイエローストーン国立公園が指定され、やがて世界各国に広まりました。日本もアメリカ合衆国の国立公園制度などを手本にして準備をすすめて、1934年3月に初めて瀬戸内海、雲仙及び霧島の3つの国立公園が指定されました。

第2次世界大戦までに12の公園が指定され、戦後さらに公園が指定され、2017年には34番目の国立公園として奄美群島国立公園が指定され、現在にいたっています。

日本の国立公園の特色は？

狭い国土に大勢の人が住み、昔から土地をきめ細かく利用してきた日本では、広い国土を持つアメリカ合衆国とは異なり、国立公園の土地すべてを公園専用とすることはできません。そのため、日本の国立公園は、多くの民有地も含んで指定されています。この結果、集落や住宅地があるところや、農林業などの産業が行なわれているところも含まれています。国立公園の管理は、人々のくらしやこれらの産業などとの調整をしながら進められています。



奄美群島国立公園